

島根県西部で確認された ヒラズゲンセイ (コウチュウ目ツチハンミョウ科) の記録

皆木 宏 明*

Records of *Cissites cephalotes* (Olivier, 1792) from Western Shimane Prefecture, Japan

Kohmei Minagi*

Keywords : *Cissites cephalotes*, Western Shimane Prefecture

キーワード : ヒラズゲンセイ, 島根県西部

1. はじめに

ヒラズゲンセイ *Cissites cephalotes* は、コウチュウ目ツチハンミョウ科に属する昆虫で、成虫の活動期は5月下旬から8月とされる(岡本, 2011)。本種は寄生性で、幼虫はキムネクマバチ *Xylocopa appendiculata* (ハチ目ミツバチ科) が枯れ枝や建材に穿孔して作られた巣内で育つ特異な習性を持つ昆虫である(杉浦・郷原, 1996)。

元来南方系の種類であるが国内で分布を北上拡大させており(初宿, 2008)、2000年代以降中国地方では山口県を除く4県(岡山県・広島県・鳥取県・島根県)で確認されるようになった(奥島, 2013; 2020; 田淵, 2017; 皆木, 2023など)。島根県での確認は2022年に県東部の出雲市で1例確認されているだけだったが(皆木, 2023)、今回、2024年と2025年に県西部の益田市と浜田市の計3地点で本種が確認されたので報告する。

2. 確認場所および発生状況

確認された益田市(確認地1)と浜田市(確認地2, 3)での確認日と状況の詳細は下記の通りである。浜田市での2地点は筆者も現地で発生状況の調査を行い、県内では初めて宿主となるキムネクマバチの巣の周囲や

地面で複数の生体や死骸を確認した。

確認地1 : 島根県益田市下本郷町ひばりが丘

採集日 : 2024年6月27日 1♂

採集者 : 糸賀静香・栗山朱莉・田中佐智子・
曾我希望美

住宅街を保育園活動で散歩中、道路上にいた本種1個体を発見し、保育士が採集した。確認情報と採集個体は、地元ケーブルテレビ局のひとまるビジョンを通じて、三瓶自然館に提供された。

確認地2 : 島根県浜田市三隅町姥谷

採集日 : 2025年6月25日 ♂1 採集者 : 下岡健

2025年7月6日 ♂1 ♀1 採集者 : 下岡健

2025年7月8日 ♂3 死骸 : 13 (♂8, ♀5)

採集者 : 皆木宏明

炭工場の資材置き倉庫において、2025年6月25日に下岡健氏が見慣れない昆虫を1個体発見し採集したと、三瓶自然館に連絡があった。その後下岡氏から同年7月6日にも同所で飛翔中のオス1個体とメス1個体の計2個体を発見、採集したとの報告があり、7月8日には筆者が現地で調査を行った。山中に建てられた倉庫には、建材として使われている柱にいくつもキムネクマバチの巣穴が確認でき、ハチが出入りし営巣中のものもあった(図1)。またヒラズゲンセイは、1つの巣穴の近くに1個体、別の巣穴のそばで2個体

* 島根県立三瓶自然館, 〒694-0003 島根県大田市三瓶町多根 1121-8

The Shimane Nature Museum of Mt. Sanbe (Sahimel), 1121-8 Tane, Sanbe-cho, Ohda, Shimane 694-0003, Japan

いるのを確認した(図2)。倉庫内を調べたところ、床や資材の上で本種の弱って動けなくなった個体と死骸を計13個体(♂8, ♀5)発見した(図3)。



図1 浜田市三隅町蛭谷でのヒラズゲンセイの発生場所



図2 蛭谷で確認したヒラズゲンセイ



図3 キムネクマバチの巣穴の下に落ちていた本種の死骸

確認地3：鳥根県浜田市三隅町古市場 三隅中央公園
浜田市役所から三瓶自然館に連絡があり、三隅中央公園にある藤棚1ヶ所にて、ヒラズゲンセイが複数発

生したとの情報が入った。最初の確認は2025年6月30日に園内の草刈中の作業者が発見し、市役所に報告、有毒なヒラズゲンセイであるとわかり、公園管理者の浜田市都市建設部維持管理課が藤棚の周囲を立ち入り禁止と注意喚起の掲示を行った(図4、図5)。また同年7月25日に、石田義生氏と浜田市三隅支所産業建設課が現地を確認した際にオス2個体を確認し採集した。本種の活動末期にあたる同年8月2日に筆者が現地で調査を行い、藤棚の梁となる木材部分にキムネクマバチの巣穴が多数あり、複数のハチが営巣活動をしていることを確認した。そのうちの1つの巣穴の近くではヒラズゲンセイのオス1個体がとまっていた(図6)。この日は他に本種の生体は確認できなかったが、藤棚の地面には本種の死骸が多数散在しており、採集して持ち帰り後日数を確認したところ、合計100個体以上(♂68, ♀41, 破損して判別できない個体分は除く)あることがわかった(図7)。他にも発生場所がないか公園内を調査したが、新たに発見することはできなかった。



図4 三隅中央公園のヒラズゲンセイ発生場所



図5 注意喚起の掲示パネル



図6 キムネクマバチの巣穴とヒラズゲンセイ



図7 藤棚の下で回収した本種の死骸

で本種が多数発生したのは今年からだと思われる。同じ浜田市三隅町の2地点から本種の発生が確認されたが、両地点は直線距離で約3.4km離れた場所であり両者の関連は不明である。しかし、両地点に落ちていた死骸の状態があまり傷んでいないことや、情報提供者も2025年に初めて確認したとの証言から判断すると、どちらもこの1, 2年の間に発生するようになったと推測される。

興味深いことに、益田市の西部に隣接する山口県ではこれまで確認されておらず、南東側で接する広島県でも現在のところ県東部での報告のみで、益田市に近い西側では報告されていないようである（奥島, 2020）。鳥根県西部にどのように分布を拡大させてきたのか興味深い。

謝 辞

本報告の発表に際して、確認情報の提供及び現地調査、個体の採集において浜田市都市建設部維持管理課、浜田市三隅支所産業建設課、ひとまるビジョン、糸賀静香、栗山朱莉、田中佐智子、曾我希望美、下岡健、石田義生の各氏にご協力いただいた。この場を借りて深謝致します。

3. 考 察

今回の確認で、少なくとも浜田市三隅町では、宿主となるキムネクマバチの巣の周りで多数の個体が確認されたため、現地で既に定着繁殖していると推察され、今後さらに県内で個体数を増やし分布を広げることが予想される。本種を含むツチハンミョウ科の昆虫は、攻撃性は低いが触れると毒性のあるカンタリジンを分泌し、皮膚に炎症を起こすおそれがあるため不用意に触れないよう注意する必要がある。

本種には、キムネクマバチの巣に多数の個体が集まってくることや大アゴを発達させているオス同士が宿主をめぐって闘争する習性があり、一方が傷つき死に至る場合もあること、またキムネクマバチも巣への侵入を防ぐため、大アゴや針で攻撃することが知れており（岡本, 2011）、今回見つかった浜田市での多数の死骸はそのような闘争の結果であると考えられる。

多数の個体が確認された浜田市の三隅中央公園には、筆者は以前から5年以上毎年同時期に訪れており、今回本種が確認された藤棚でのキムネクマバチの営巣活動も毎年見ているが、これまでヒラズゲンセイを確認したことはなかった。そのため、おそらくこの場所

引 用

- 皆木宏明（2023）鳥根県初記録となるヒラズゲンセイ（コウチュウ目ツチハンミョウ科）の記録。鳥根県立三瓶自然館研究報告 21. 75-76
- 岡本素治（2011）ヒラズゲンセイの配偶システムの観察と生活史ノート。昆虫（ニューシリーズ）14（4）.263-275
- 奥島雄一・神田佐奈恵（2013）岡山県におけるヒラズゲンセイの分布拡大（コウチュウ目、ツチハンミョウ科）。倉敷市立自然史博物館研究報告 28. p.57-60
- 奥島雄一（2020）広島県におけるヒラズゲンセイの記録（コウチュウ目ツチハンミョウ科）。倉敷市立自然史博物館研究報告35. 33-34
- 初宿成彦（2008）ヒラズゲンセイの温暖化による北上と生活史。昆虫と自然43（12）9-12.
- 杉浦直人・郷原匡史（1996）キムネクマバチの天敵、ヒラズゲンセイの生活史。インセクトリウム.238-242.
- 田淵彰彦（2017）鳥根県鳥取市でヒラズゲンセイを採集。月刊むし563.50-51
- 田村昭夫（2021）ヒラズゲンセイがとうごう保育園（鳥取市）で採集される。ゆらぎあNo.39.39

